

## 安全報告書【2023 年度】

### 1 ごあいさつ

---

日頃より、ニューシャトルをご利用くださいますこと誠にありがとうございます。

当社では、鉄道事業最大の使命である安全・安定輸送遂行のため、「安全・安定輸送、お客さまからの信頼」を安全重点施策に掲げ、2019 年列車脱線の再発防止、老朽設備の計画的な更新、および故障防止に向けた修繕に注力するとともに、近年頻発化、激甚化する自然災害に対応すべく、大規模震災や台風、雪害等の災害対応力の強化を図ってまいりました。

また、安全の本質を通じ自ら考える安全への取り組み等によりヒューマンエラーによる事故等を防止する他、運輸安全マネジメント制度の趣旨と個々人のやるべきことの徹底を図ることにより、安全目標である『お客さま・社員の死傷事故ゼロ、鉄道運転事故ゼロ、重大インシデントゼロ』を達成すべく確実に実行してまいります。

新型コロナウイルス感染症の影響や、事業に必要な動力費等の値上げなど、当社を取り巻く事業環境は依然として厳しい状況が続いていますが、今後とも安定した経営を継続していくために、必要な設備投資を計画的に行い、安全対策に万全を期すとともに、全社を挙げて時代の変化に遅れることなく業務改善等に全力で取り組む所存です。

2023 年 12 月にはニューシャトル開業 40 周年を迎えます。これまでご利用いただいたお客さま、地域の皆さまに改めて感謝の気持ちを伝えるとともに、『New Shuttle (40th) 魅力彩発見』のもと、あらたな地域の魅力を『彩』発見し、更なる沿線地域価値向上に貢献してまいります。

これからも、ご利用いただいているお客さまや、地域のみなさまに愛され信頼され将来も「この沿線に住みたいと思っただけ、選ばれる鉄道であり続ける」よう社員一同取り組んでまいります。

この報告書は、鉄道事業法に基づき、2022 年度に実施した私たちの安全に関する取り組み状況などを、みなさまにお知らせするために作成いたしました。是非ご一読いただき、輸送の安全・安心の確保に向けた取り組みをより確かなものとするため、ご意見、ご感想をお聞かせくださいようお願い申し上げます。

令和 5 年 9 月

埼玉新都市交通株式会社  
代表取締役社長  
唐澤 朝徳

## 2 安全に関する基本的な方針

「安全」は鉄道事業の最大の使命であるため、当社の企業理念に『安全第一』を掲げるとともに、安全に対する行動指針及び基本的な考えである『安全綱領』を定め全社員に周知・徹底を図っています。その他、安全目標を掲げ全社一丸となって安全性の向上に取り組んでいます。

### (1) 企業理念

#### 企業理念

私たちは、安全を第一として、安定した輸送とおもてなしの心を込めた良質なサービスにより、社会に貢献する地域に根ざした会社を目指します。

### (2) 安全綱領

#### 安全綱領

- 一、安全は輸送業務の最大の使命である。
- 一、安全の確保は、規程の遵守及び執務の厳正から始まり、不断の修練によって築きあげられる。
- 一、確認の励行と連絡の徹底は、安全の確保に最も大切である。
- 一、安全の確保のためには、職責をこえて一致協力しなければならない。
- 一、疑わしいときは、最も安全と認められるみちを採らなければならない。

### (3) 安全目標

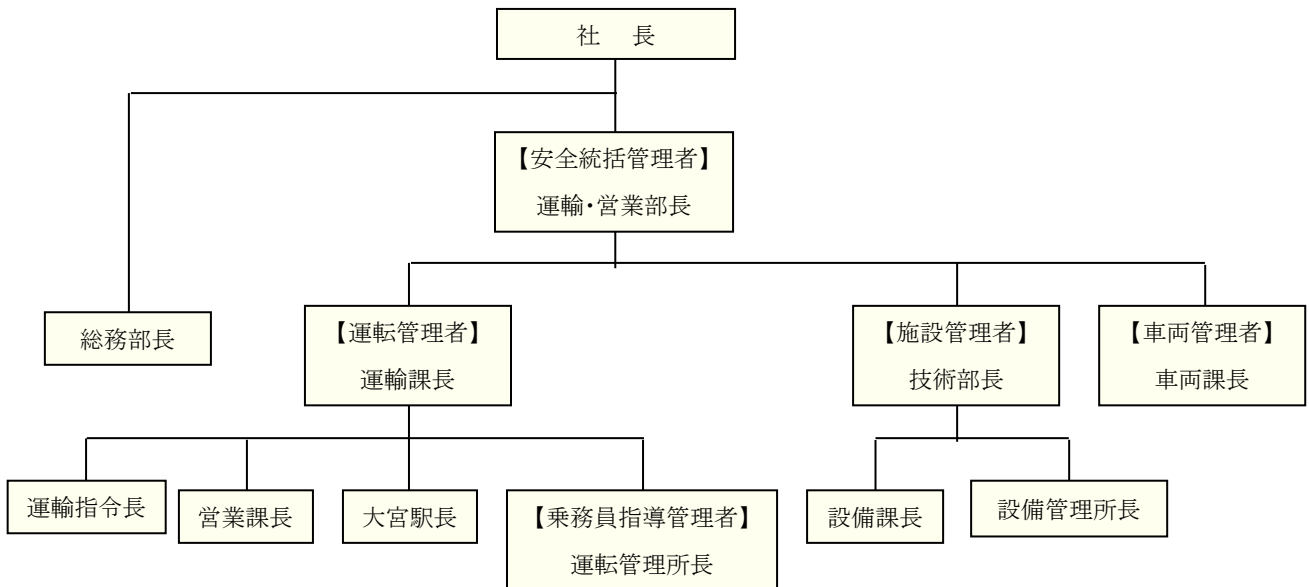
#### 安全目標

お客さま・社員の死傷事故0(ゼロ)、  
鉄道運転事故0(ゼロ)、  
重大インシデント0(ゼロ)

を目指す

### 3 安全管理体制

社長を頂点とする安全管理体制を構築し、各責任者の輸送の安全確保に関する役割・責務を明確にし、経営トップから現業まで一丸となって安全・安定輸送の確保に取り組んでいます。



| 役 職      | 役 割 ・ 責 務                                   |
|----------|---|
| 社長       | 輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。                      |
| 安全統括管理者  | 輸送の安全の確保に関する業務を統括する。                        |
| 運転管理者    | 安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。                 |
| 乗務員指導管理者 | 運転管理者の指揮の下、乗務員の資質(適性、知識及び技能)の維持に関する事項を管理する。 |
| 施設管理者    | 安全統括管理者の指揮の下、鉄道施設に関する事項を統括する。               |
| 車両管理者    | 安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する。                 |

## 4 安全管理の実施状況

運輸安全マネジメント制度に則り、主に以下の取組みにより安全管理を継続的に行い、安全性の向上を図っています。

また、当社は2022年11月に関東運輸局による運輸安全マネジメント評価を受け、安全管理体制の構築及び改善に関する取組みについて、各項目において見直し・改善が図られているとの評価をいただきました。

### (1) 安全推進のための会議

経営会議をはじめとする主要会議や事故防止委員会を通じて、鉄道事故や災害等に対する情報の収集、防止対策等を協議する他、安全に関する横断的業務を中立の立場で統括する安全推進横断チームを組成し、多面的な視点で協議しています。

#### ① 事故防止委員会

社長以下役員を含めた本社管理職の社員、現業機関管理職(助役)以上の社員及び車両整備業務委託会社の社員が参加し、隔月で開催しています。安全上のリスクの抽出とともにその解消、運転事故・輸送障害・インシデントの徹底的な分析により再発防止に取り組んでいます。

#### ② 車両故障防止報告会

社長以下役員を含めた本社管理職の社員、現業機関管理職(助役)以上の社員及び車両整備業務委託会社の社員が参加し、四半期に1回開催しています。車両故障の原因について、ハード面及びソフト面から分析・議論しています。

#### ③ 業務委託会社との検討会

車両整備業務委託会社と当社車両課による品質向上検討会を毎月1回開催し、車両故障の原因についての分析・議論しています。また、車両整備内容の確認、在庫品の確認等を行い、車両整備が予定どおりに進捗するように検討しています。

### (2) 運輸安全マネジメント内部監査

運輸安全マネジメント制度に基づく内部監査を実施し、安全管理体制の有効性について計画的に検証を行い、リスクの軽減を図っています。

### (3) 安全総点検を中心とした経営幹部による現場巡回

各種安全運動期間中に限らず、社長以下役員を含め本社管理職の社員が各職場を巡回し、安全に対する取組み等を確認するとともに、全社員に対して安全意識の高揚及びコミュニケーションを図っています。



社長巡視の様子



現場社員との意見交換

## 5 事故の発生状況

2022 年度の輸送障害、事故等の実績は以下のとおりでした。

- (1) 鉄道運転事故(衝突、脱線、火災など、または死傷者の発生に至る事故)  
発生はありませんでした。
- (2) 輸送障害(列車の運休、または 30 分以上の遅延が発生した事象)  
輸送障害が、3 件(車両不具合 2 件、列車内異臭確認 1 件) 発生しました。
- (3) インシデント(鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事象)  
発生はありませんでした。

過去 3 年間の鉄道事故等の発生状況は以下のとおりです。

| 年度 \ 事故種別 | 鉄道運転事故 | 輸送障害 | インシデント |
|-----------|--------|------|--------|
| 2022 年度   | 0 件    | 3 件  | 0 件    |
| 2021 年度   | 0 件    | 1 件  | 0 件    |
| 2020 年度   | 0 件    | 0 件  | 0 件    |

## 6 安全確保のための取り組み

### (1) 各種訓練

#### ① 運転士の教育訓練

年 6 回 応急処置、異常時の運転取り扱いを中心に、現車を使用した訓練を実施しています。

#### ② 指令員の教育訓練

年 6 回 運転整理、異常時の取り扱いを中心に訓練を実施しています。

#### ③ 施設・電気保守係員の教育訓練

設備故障時の早期復旧・異常時対応能力の向上を目的とし、安全作業教育、電車線地絡事故復旧訓練、転てつ機取扱訓練、遮断器取扱訓練、入換合図訓練、案内軌条解体復旧訓練、分岐器解体復旧訓練を実施しています。

日々の工事着手前打合わせにて PKY (Planning Kiken Yochi) 等により、工事請負会社と互いにリスクを共有しながら施工方法と安全対策の確認を行っています。

#### ④ 防災訓練

2022 年 9 月 1 日(木)、災害発生時の初動対応を中心とした実践的な訓練を通じて、災害発生時の各自役割行動の確認、対応力の強化を図るとともに、その後の検証により防災体制の向上を図りました。



災害対策本部設置・運営訓練



避難誘導訓練・車両対応訓練

## (2) CS(チャレンジ・セーフティー)活動

職場ごとに、安全に関する各社員からの意見をもとにした議論を、管理職社員がフォローする形で実施しています。現場社員からの「ヒヤリハット」、「事故の芽情報」は、ポータルサイト等を活用し情報の共有化を図っています。

### ① 運転管理所における CS 全体会議

年間3回実施 社員一人ひとりが自ら考え、更なる安全を目指しています。

### ② その他現業機関における CS 会議

設備管理所、総合指令所、大宮駅では、その他会議や訓練の場で CS の議論を実施しています。

### ③ 各箇所の CS 活動情報の共有化

各現場からの情報は、社内ポータルサイトに掲載し全社員に共有化しています。

## (3) 安全研修

過去に起きた事故の悲惨さや社会的責任の重大さなどを学び、安全意識の向上を図りました。研修では、社長による安全講話のほか、事故の歴史展示館(JR 東日本総合研修センター)、安全啓発センター(日本航空)の見学を通じ、安全の重要性を学びました。



社長による安全講話

## (4) 事故の風化防止活動

後世に伝承すべき事故に関するパネルを作成し訓練等に活用して教育することにより過去に発生した事故の再発防止対策や教訓の風化防止に取り組んでいます。



2019 年列車脱線事故パネル

(5) 運転士の健康管理

① 仕業前点呼時の健康状態の確認及びアルコール検査

管理者と対面による心身の健康状態の確認を行っています。このうち、酒気帯びの有無の確認については、目視等によるほか、アルコール検知器を用いて行っています。

② SAS(睡眠時無呼吸症候群)検査

スクリーニング検査を定期的実施し、SASに起因する事故の防止に努めています。スクリーニング検査で精密検査が必要と判断された場合は、指定の病院で精密検査を実施しています。

(6) こども110番の駅

沿線の子供たちを、事件・事故等のトラブルから守るため、全駅を「こども110番の駅」とし、安全かつ安心してご利用いただける駅づくりに取り組んでいます。

(7) 事業所自衛消防組織

火災発生時の緊迫した状況においても、迅速かつ適切な行動が行えるよう自衛消防訓練を実施しています。

## 7 安全を支える設備および取り組み

安全を支える主要な設備として、列車保安方式はATC(自動列車制御)装置を、進路制御にはARC(自動進路制御)装置を採用しています。

ホーム上の安全設備については、非常列車停止装置を2018年に増設し、充実させてまいりました。また、ホーム転落防止柵、内方線付点字ブロック、CPライン及び指令員と直接通話ができるインターホンを設置しています。

車両については、タイヤの内圧の異常を検知するタイヤ内圧監視装置、ホーム反対側のドアが開かないようにする誤開扉防止装置を導入しています。また、車内の安全確保及び犯罪防止のため防犯カメラを全車両に設置しています。

駅にはAEDを全駅改札付近に設置しており、防災訓練時に取扱訓練を実施しています。駅構内の安全確保及び犯罪防止のため防犯カメラを全駅に設置し、改札口周辺及びホーム上の映像を総合指令所で集中管理している他、大宮駅等でも確認できるようにしています。

安全・安定輸送を確保するため、老朽化した設備・車両を計画的に更新、修繕を行っています。

[2022年度の主な実施項目]

**老朽設備更新**

- ・ 東宮原駅下りホーム上家ほか外壁修繕
- ・ 志久駅ホーム上家修繕
- ・ き電ケーブルの取替え
- ・ 変電所機器更新
- ・ ATC/TD 車上装置試験機更新
- ・ 2000系01編成機器更新

**故障防止対策**

- ・ 走行路の修繕(走行路面、伸縮継目)
- ・ 橋りょうの修繕(剥落対策、鋼桁塗装)
- ・ ATC/TD 設備オーバーホール

## 8 お客さまの声に対する対応

ニューシャトルでは、お客さまからお寄せいただいたご意見・ご要望をもとに、サービスの改善に取り組んでいます。2022年度は、245件の貴重なご意見・ご要望を頂戴しました。

走行中大きい音がした、いつもより揺れる等、安全に関わる情報をいただいた際は、すみやかに点検を実施するなど安全の確保に取り組んでいます。

### ◆お客さまの声に基づく改善事例

お客さまの声：ニューシャトルの運行情報を知るには、どうしたらよいですか？以前、ホームページを見ても運行情報が更新されておらず、駅まで行って確認したことがあります。

改善策：運行情報の更新は、社員が行っていましたが、業務輻輳時や早朝夜間は更新まで時間がかかることがあり、お客さまにご迷惑をお掛けしていました。配信業務を外部に委託することにより、ホームページや駅発車標でのタイムリーな運用情報の提供が可能になりました。



ホームページによる運行情報提供



駅発車標による運行情報提供

## 9 災害対応力の強化

台風や雪害等、自然災害が想定される場合は、早期に対策本部を設置し、その対応にあたっています。対策本部運営の後には、対応の振返りを行い必要なマニュアルの見直しや整備、各現場で実際に即した訓練を計画的に実施するなど、災害対応力の強化を図っています。

## 10 鉄道テロ対策

テロや犯罪行為等の未然防止等のため「見せる警備」を軸とした以下の対策を実施しています。

### (1) 巡回・警備

警社員により駅構内、終着駅での折り返し列車の車内及び車両基地等の確認を強化し警戒しています。また、警戒強化期間中には「特別警戒腕章」を着用し「見せる警備」を実施しています。



(2) 警察・消防との連携

テロや犯罪対策に万全を期すため、警察、消防機関と連絡会議に参加し緊密な連携に努めています。

(3) 防犯カメラ警戒表示

駅構内及び列車内に防犯カメラを設置していることを示す表示を掲出し、テロや犯罪行為等の未然防止を図っています。

(4) 不審者・不審物発見時の協力要請

お客さまへ駅構内の案内表示や放送等により不審者・不審物発見時に関するご協力をお願いしています。

## 11 お客さまへのお願い

(1) 鉄道事業者等と連携し「声かけ・サポート」運動強化キャンペーンを実施しています。

お身体の不自由な方や、駅構内でお困りのお客さまを見かけましたら、「お手伝いしましょうか」等のお声かけをいただきますとともに駅社員、運転士にお知らせください。

(2) 電車には優先席を設けています。乳幼児をお連れの方、妊娠している方、ご高齢の方、お身体の不自由な方、内部障がいのある方、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方が、周囲の方に知らせる「ヘルプマーク」、周囲の方に妊婦であることを示しやすくする「マタニティマーク」などを身につけている方等には、お声かけいただき、座席をお譲り下さい。また、車内には、車いす・ベビーカー等優先スペースを設置しております。さまざまなお客さまが安心して快適にご利用できるよう優先スペースの譲り合いにご協力をお願いします。

(3) エスカレーターは立ち止まらずに利用すると転倒や転落等思わぬ事故やおケガの原因にもつながります。ご利用の際にはベルトにつかまり、立ち止まった状態をご利用ください。

(4) 不審物を発見された場合は、触らずに駅社員、運転士またはインターホンにてお知らせください。



駅務室インターホン



ホームインターホン



電車内インターホン

(5) 発車間際の駆け込み乗車は大変危険です。無理をせず次の電車をご利用ください。

(6) 車内では、スマートフォン等はマナーモードに設定の上、通話をご遠慮ください。また、優先席付近では、混雑時は電源をお切りください。

(7) スマートフォン等を見ながらの歩行は、他のお客さまと接触するなど大変危険ですので、お止めください。

- (8) 電車は危険回避のため、急ブレーキをかける場合があります。車内では、つり革、手すりにおつかまりください。
- (9) 鉄道事業者等と連携し「プラットホーム事故0(ゼロ運動)キャンペーンを実施しています。ホームから転落しそうなお客さまや、列車に接触しそうなお客さまを見かける等、危険を感じた場合は非常停止ボタンを押して駅社員、運転士にお知らせください。



非常停止ボタン

## 12 お問い合わせ

---

今後の安全対策やより安全で信頼される鉄道をつくるために、みなさまからのご意見・ご感想をお寄せください。

埼玉新都市交通株式会社

ホームページ <http://www.new-shuttle.jp/>